

FLOWER SHOP

観葉植物は
人間を救う。

Flower Shop: Flower Plants with Evergreen Leaves

**主体性なき
デジタル社会の進行が
社会に閉塞感を生み出す**

経済成長という国家的な大目標が
コンセンサスとして通用していた時
代はいざ知らず、そのゴールがとう
の昔に失われた新しい地平に立ちな
がら、今もなお旧態依然としたルー
ルから脱することのないまま、デジ
タル社会は人間性を奪う方向へと容
赦なく突き進んでいるように見える。

バブル経済崩壊後、多くの企業は
経費削減の名のもと、合理化と効率
化こそがサバイバルのための唯一の
手段であると言わんばかりに、余剰
（と感じられるもの）に対して徹底し
た排除を押し進めてきた。そして日
本のデジタル社会は主体性を持たぬ
ままグローバル化のうねりと同調し、
その結果、ほとんどの人々は余剰を
削ぎ落とすためのチキンレースに参
加させられることになったのである。
そのレースはゴールを見出せぬまま、
見せかけの疾走感を伴いながら依然
としてだらだらと続いている。誰も
が最悪のシナリオに脅えながら。

**パーソナルな観葉植物が
職場における
快適性を高める**

当たり前のことながら、新しいも
のは余剰がなければ生み出すことは
できない。新しいものを生み出す可
能性を持たずに流れていく果てしな
い時間はひっそりと確実にストレス
を堆積させていく。余剰に見えてい
たものが、実は必要なものであった。

自らが抱え込む閉塞感に風穴を開け
ようと試みるのは、人間として当然
の本能であると思う。個人だけでな
く企業などの法人もまた、そのこと
に気づき始めている、と信じたい。

そして観葉植物は、その動きを加速
させるためのツールとして、今後さ
らに多くの関心を集めていくのでは
ないだろうか。

ある大手企業は、社員一人ひとりの
デスクにミニ観葉植物を置く試み
を始めたという。日々のメンテナン
スはそれぞれの社員が行う。観葉植
物を職場のインテリアとしてフロア
に置くという従来の用途からさらに
先へと進み、自分だけの植物に対し
て世話をするという行為を発生させ
ることで、植物を注視する時間を創
造し、働く人間の心理的な快適性を
高めていくこうとしている。

**「環境にいい、健康にいい」
グリーンアメニティによる普及**

全国の観葉植物生産者から、流通
販売分野まで連携されたネットワー
ク組織、観葉植物開発普及協会では、
「Green Amenity（グリーンアメニテ
ィ）」の活動を推進している。室内に
観葉植物を置くことが人間の快適性
を向上させることは、科学的な研究
によっても分かっている。

そうした研究結果も踏まえ、「花と
緑と共に暮らすこと」を通して、豊か
な社会を実現する」を目標に掲げた
グリーンアメニティクラブなどを展
開。インテリアグリーンという概念

から一歩進み、観葉植物は「環境に
いい、健康にいい」というアピール
を続けることで、その普及につとめ
ているのである。具体的な活動内容
については、充実したコンテンツで
メッセージを発信している、グリー
ンアメニティのホームページ
<http://www.ofpa.jp/greenamenity/index.html>をご覧ください。

**観葉植物の置き場所を
広げていく活動**

観葉植物開発普及協会の事業部長
を務める、株式会社プラネット代表
取締役の大林修一氏は、「観葉植物が
「環境にいい、健康にいい」という情
報は、まだまだ消費者のところにまで
伝わっていません」と言う。「だから
こそ、その情報を積極的に発信して
いくことで、一世帯における観葉植
物の置き場所の拡大につなげていく
ことができると思っています」

インテリアとしてのみ見る限り、
観葉植物の置き場所はどうしてもリ
ビングルームといった家族の共有ス
ペースに限定されることになる。そ
こに「環境、健康」というコンセプ
トを付加することは、子ども部屋、
寝室、キッチン、和室など、各部屋
に観葉植物を置く動機づけにつな
がるという発想だ。「科学的に解明され
てきている観葉植物が「環境にいい、
健康にいい」という情報を消費者に
伝えていくためには、生産・流通・
販売が一体となった形で活動してい
く必要があります」（大林氏）。

これからの時代、観葉植物のニーズが高まっていくのではないかと――？
都市に暮らしていると、そんなふうを感じる。
その仮説の根拠はありきたりだが、やはり「デジタル型ストレス社会の進行」である。
パソコンや携帯電話が生活の中ががちりと組み込まれた今、
視覚からくる肉体疲労や精神的な重圧は、
可視的なもの不可視的なものいずれをも含めた形で、
都市生活者に不気味な影を落としていると言えるだろう。
観葉植物は人間を救う――。
インテリアとしてはもちろん、「環境にもいい、健康にもいい」とされる観葉植物は、
そんな時代だからこそ、その魅力とパワーを発揮するのではないだろうか。

特集 観葉植物

観葉植物は

SPECIAL ISSUE Potted

人間を救う。

Plants with Beautiful Leaves



観葉植物の
使用シーン拡大で
サイズのニーズが細分化

観葉植物が環境や健康にいい、という情報に基づくグリーンアムニエティの概念がビジネスシーンや日常生活の中に浸透していけば、消費者に求められる観葉植物のサイズもさらに多様化していくだろう。

大きなサイズの観葉植物を共有スペースに一つ置いておけばいいという習慣から解放されたれ、よりパーソナルな空間へとその置き場所が枝分かれしていくのだから、ミニサイズ、ミディアムサイズの観葉植物のニーズがさらに拡大していくことが予想される。そして、切花をメインに扱う花屋さんの品揃えを考えた場合、4寸鉢、5寸鉢を中心としたミディアムサイズの観葉植物に注力することが、実際的な売上げアップにつながるのではないだろうか。

大きすぎず、小さすぎず
ミディアムサイズが
ちょうどいい

大型の鉢物は売り場スペースの確保が難しいし、メンテナンス面でも負担が大きい。ミニ観葉は雑貨店などでも取扱いが多く、競合が激しいし単価が低い。その点ミディアムサイズの観葉植物であれば、売り場内のコーナー設置も比較的容易にできるだろうし、花屋さんの専門知識も付加価値として付けやすい。おしゃ

れな器と組み合わせることで、ギフトアイテムとしてもある程度の単価設定が望めるだろう。

物流の観点に立ってみても、観葉植物においてミディアムサイズが活躍する可能性が広がってきたと言えそうだ。

このところの物価上昇などにより、配送についてもコストアップが進んできている。以前とは違い、配送時の箱のサイズが3辺合計150cmを超えると運賃がアップし、ギフトの商売として利益を確保していくことが難しい時代となった。それ以下の箱サイズとなると、ハイポットが流行していることもあり、5寸鉢、せいぜい6寸鉢までが限界となる。

ぴったりサイズグリーンが
マーケットを底上げする

さらに商品価格も考えると、あまりにも安いものではギフトになり得ない。4000~5000円という価格で、送料も手ごろとなると、やはり5寸鉢あたりが販売と消費者ニーズのベクトルが交わる点と言えるだろう。

売り場スペース、商品展開、ギフト対応、配送、メンテナンス、そして最も重要な消費者ニーズが拡大する可能性。そうした様々な要素を組み合わせて考慮すると、4寸鉢、5寸鉢を中心としたミディアムサイズの観葉植物が花屋さんの「ぴったりサイズグリーン」として、マーケットを底上げする可能性が高いのだ。

part1 花屋さんのための ぴったりサイズ グリーン
Pittari Size Green for Flower Shops

ニーズ拡大が期待される観葉植物。
花屋さんにおけるプラスオン商材としても活用できるアイテムだ。
しかし、売り場スペースの確保やメンテナンスなどの問題から、その取扱いは難しいと感じるショップもあるかもしれない。
そこで今回は、「花屋さんのための ぴったりサイズ グリーン」を提案。
観葉植物を上手に使って、売上げアップにつなげてもらいたい。

*サイズ表記の数字は、おおよその目安です。

どうして今、
「ぴったりサイズグリーン」
なのか？

ヒメタコノキ
タコノキ科 タコノキ属
鉢の口径/17cm
小型のタコノキで、よく分岐して茂り、多数の気根を持つ。葉はやや肉厚でらせん状に配列し、葉縁および葉脈にとげを持つことが多い



フィカス ウンベラータ
クワ科 フィカス属
鉢の口径/10.5cm
ハート型をした葉で美しい緑色を呈す。枝は立てて新緑と緑の対比が美しい。低温にはやや弱い面がある。乾燥したところではハダニが発生しやすい



シェフレアアンガスティフォリア
ウラボキ科 シェフレア属
鉢の口径/10.5cm
新葉はとてもしっかりワックスをかけたよう。葉は細長くシンプルを感じ、低温にはやや弱い面があるが、耐陰性、乾燥は、丈夫なほう



フィカス グランデイス
クワ科 フィカス属
鉢の口径/20cm
葉は肉厚で両面無毛または軟毛が密生し、葉裏が美しい。樹皮は灰白色。乳白色で粘着性のある樹脂が出る



矮性カシワバガム
クワ科 フィカス属
鉢の口径/10.5cm
小型のカシワバガムで、葉のサイズは、在来種の半分程度の大きさにしかならない。葉は密に付け丈夫なおすすめ品種

「初級コース」の
観葉植物から

「業界インフラ」として
電子カタログを使った
産直販売を育てていきたい

観葉植物は園芸で言えば「初級コース」です。素人であってもまず枯らせることなく、身近に楽しめたい。園芸マーケットにおける消費拡大のためにも、観葉植物をもっと普及していくべきだと思えます。さらに言えば、インドアの観葉植物と気軽に楽しめるアウトドアのベランダガーデニングを、合わせて提案していきたいですね。インテリアとしての観葉植物から入ってきた消費者が、そこから園芸の中級、上級へと進んでいくれば、将来的なマーケット拡大にもつながるでしょう。

「園芸消費者は、消費者全体の3割に満たない」とずっと言われてきましたし、園芸店に足を運ぶのは目的買いのお客様です。

ただ、限られた売り場スペースの中で多くのラインアップを置いてもらうのはなかなか難しいかもしれません。そこで株式会社プラネットでは、パソコンで観葉植物を選べる「電子カタログ」の配布を計画しています。

店頭に設置したパソコンでカタログを見て商品を選び、その場で代金をお支払いいただく。お買い上げいただいた観葉植物は、陶器鉢等指定の植込みをして、産地直送で後日指定の場所に届く。この形であれば、売り場スペース、支払い、商品在庫、そして商品の新鮮さなど、あらゆる面において小売店の商売にメリットを提供できると思います。



株式会社プラネット代表取締役
大林修一氏に聞く

究極のぴったりサイズ!? 観葉植物の
「電子カタログ」



ツビダンサス
カリブトランス
ウコギ科 ツビダンサス属
鉢の口径/17cm
生長すると樹は人性の大木になる。葉が厚く、小葉3~9枚、長さ10~25cm。耐寒、耐陰性があり涼気好き



コスタス プルベルレンツス
ショウガ科 コスタス属
鉢の口径/18cm
高さ3mになる熱帯性の多年草。葉は決厚で裏側は赤紫色で軟毛に覆われている



モンパノキ
ムフサキ科 カキバチヤノキ属
鉢の口径/17cm
葉は多肉質で両面ともに白毛が密生する。高さ1~5mになる常緑低木。日向を好み、越冬には最低5~10℃必要



フィロデンドロン ホーブ
サトイモ科 フィロデンドロン属
鉢の口径/25cm
つる性で他植物に寄生する性質を持つ。葉は変り葉型でふちが波打っている



シェフレラ コンパクト
ウコギ科 シェフレラ属
鉢の口径/14cm
直立性ではなく、分枝して四方にふんわりと広がって伸びるタイプ。育てやすく耐陰性もある。葉は濃緑色で掌状葉



ネオレグリア ニュートリカラー
パイナップル科 ネオレグリア属
鉢の口径/11.5cm
中型の着生種で葉縁にとげのある固い葉が四方に水平に広がる。中心部分に水を蓄え、その水面に青~紫色の花を咲かせる



アガベ アテナータ
リュウゼツラン科 アガベ属
鉢の口径/15cm
多肉植物で葉は放射線状に多数つき、ロゼット状になる。直射日光を好み、木は控えめでよい。耐寒性は弱い



葉付きも良いコンパクトサイズ
ハワイ州が認める安心品質

ハワイの火山が生んだ
培養土ハワイが
細かい根を育てる

ハワイ生まれのぴったりサイズ・グリーン、ミニ・アンズリウム鉢植え「Small Talk Red」が、ここ数年のハワイブームもあり注目を集めつつある。クラシックな濃い赤が印象的なこのアンズリウムは、アメリカ農務省認可を受けた日本に運送されることになった希少品種のあるアイテムだ。その品質はハワイ州お墨付きなので、安心して取り扱える。

大きなアヒルポイント培養土、ハワイ島のマウナロア火山とキラウエア火山の溶岩層（溶岩）とココヤシの繊維が混ざった培養土が使われているのだ。中性で余分な肥料分を含まず、自然素材の培養土として非常にすぐれているので、とても細かい根を無駄に張り丈夫に育つ。花屋さんの売上げアップにつながるアイテムとしても期待できる。



フレッシュな印象のレッドから、アンティーク調への変化が楽しめる



輸入販売元の株式会社サングローブフードは、日本で唯一、ハワイ産観葉植物よりハワイ産及びハワイ産品を認証するプログラム、SEAL of QUALITYを授与されている。ハワイの花を通して、人々の生活に思いを馳せさせるような高品質なものを届ける同社のカンパニーポリシー、「良いものを見極める力」が認められた結果だ。認証シールの代金の一部は、ハワイの産地を守るための資金として使われている。

輸入販売元
株式会社サングローブフード TEL03-5492-3962 URL: http://www.growninhawaii.net

part1 花屋さんのためのぴったりサイズ グリーン



ドラコトドン
コンシンネ
ホワイボリー
リュウゼツラン科
ドラコトドン属
鉢の口径/20cm
葉は細く高さ3.5m程になる。葉は細長く剣のような形で、緑地に黄白色の条斑が入る。多光多湿を好み